



コロナ禍で、4月は残念ながら前例のない休校となってしまいました。そして5月は連休明け後の登校になりました。家ででの自粛という生活は、規則正しい学校生活から、一転して自由という名の、縛られた生活を余儀なくされ、毎日がストレスとなり貯蓄していくかのようですね。これから先、公文の学習形態がどのようになるか、公文教育研究会が、この先どのように皆様に対応するか、今のところはちょっと見当がつかない、というのが正直なところです。ただ、心から思えることは、勉強しなければ学力は落ちる、ということです。何もしないでいれば、確実に出来なくなるということです。日本の識字率は世界中に誇れる高さです。それはご家庭の認識の高さであり、民度の高さでもあります。公文式学習は「家庭学習」から始まりました。今は亡き公文公(くもんとおる)会長が、高校の数学教師であった時、自身の子どもたちに、高校数学から見た小学校算数の必要最小限部分だけを精選して、学習させたことに始まります。私自身教わらなければできないという観念を、いくつも覆されてきました。教わらなくても、自分自身で考え、学ぶことはできるのだということを感じました。ただそれには、ご家庭のご協力が必要不可欠であり、子どもさんを取り巻く多くのものが、同じ方向を向いていることが重要なのだと思うようになりました。これからどのようになっていくかは私にもわかりません。でも、勉強できることは幸せなことなのです。その幸せをじっとかみしめて、いっぱい勉強しましょう。一つ大事なことは、自由時間ができた分、国語力を落とさないためにも、読書の時間を増やしいろいろな本を読んでください。子供さんに読ませてください。コロナ禍に打ち勝ってこそ自分の将来が決まるという気持ちで、今まで以上遅れた分を取り戻す努力をしてください。指導者を含めスタッフも一丸となって全力で応援指導致します。コロナ禍はまだまだ終わりでなく、ずっと続きそうですが、規則正しい生活をしっかりして感染しないさせないよう、決められたことをしっかり守り、乗り切っていくしかありません。

公文式の創始者・公文 公(くもんとおる)先生の言葉より

“先へ進むことで自習する力がつく”

学年の内容より先へ進むことは、学校の成績を上げるばかりでなく、子どもの心の成長にも大きな効果をもたらすようです。子どもが「もっと先を知りたい」と興味をもったときに、年齢や学年にこだわってその気持ちに添ってあげないと、いつしか新しいものを発見する意欲を失ってしまうこともあります。一方、公文式で学年相当より先の教材を学習している子どもたちを見ますと、高学年の子どもばかりでなく、幼児や低学年の子どもにも、自習する習慣が十分に身につけているようです。「勉強は人に教えられなくてもできる」「少しぐらい難しいことでもやればできる」という自信もできてきます。

Sun日	Mon月	Tue火	Wed水	Thu木	Fri金	Sat土
					1	2
(注)8日横割教室やります						
3 <small>憲法記念日</small>	4 <small>みどりの日</small>	5 <small>こどもの日</small>	6 <small>新緑の日</small>	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

□本市場教室学習日
△横割教室学習日

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

5月分の会費は4月分会費充当です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

コロナウィルスが蔓延（まんえん）しています。

教室へ来る前に家で体温を測りましょう！

体温が37.5℃以下なら大丈夫です。体温がそれ以上の人は公文をお休みして在宅学習をお願いします。

教室へ入るときは、必ず「マスク」をしてください。ない人は申し出ていただければマスクを差し上げます。

備え付けのアルコールで手洗い消毒してください。

◎国語力がなくては話になりません!!

今年はコロナの影響で実施されませんが、全国学力テストの中学3年「国語B」で、新聞記事を題材に、内容を確認したり、感想をまとめたりする新しい形式の問題があります。出題を担当している国立教育政策研究所は「日常生活の中で、国語の能力を活用できるかどうかを見る上で新聞は最適な教材だ」と意図を説明しています。

教育活動への新聞の利用をめぐるっては、中学国語などの新学習指導要領にも明記され、学校で新聞を教材として活用する「NIE」（教育に新聞を）を推進する動きも各地で広がっています。

テストでは「今も色あせない魅力」の見出しが躍る架空の“全国新聞”一面記事が登場しました。実物さながらの写真付きレイアウトで、作家太宰治が生誕100年を迎え、ゆかりのある東京都三鷹市に多くのファンが訪れたとの記事を紹介。下段にコラムも掲載し、「紙面のトップ記事とコラムの書き方の違い」を考えさせました。具体的には、実生活に生かせる学力を重視しています。

中3国語には、架空の新聞記事や生徒会役員選挙の演説を読ませるなどして、読解力を試す出題があります。

小6算数でも「定価の20%引き」と書かれた割引券を使うと商品の金額がどう変わるかを問う問題があったほか、折りたたみ式のバスのドアを題材にして三角形の性質を問うなど、ユニークな出題が目立ちました。

これは、しっかりした国語力がないと回答が難しいことを伺わせています。

1教科を選択中の生徒さんは、将来を見越してせめて、国語と算数という2教科を選択してほしいというのが指導者の思いです。

し続けること「しつけ」

－「しつけ」は忍耐強く－

脳細胞は外からの刺激に対して、いつもシナプスを作り続けていると言います。パブロフ博士が条件反射を発見したとおり、くり返し一定の条件を与えることにより、そのための反応が定まってきます。私たちが子どもをしつけるということは、子どもの中に一定の定まった回路を作るということです。公文式の教室では、乳幼児期から社会人までの多くの人達が学習をしています。自学自習用のプリントは、細かいステップに分かれていて、子ども達が自然に徐々に進んでいけるように配慮されています。それでも、くり返しの学習がいやになったり、毎日やるという習慣をつけることができなかつた子ども達があります。理解力が不足している訳ではないのに。

－「しつけ」こそ学習の土台－

そしてこのような子ども達の特徴は、耐える力が欠けているということです。生活上の自立が十分できていなかったり、人の話を聞けなかつたり、文章に書いてあることをきちんと読んで理解しようとしません。質問に来る時も、「ここの答えは何?」と言う聞き方をします。

順を追って説明していると、「めんどくさい」と言ってイライラしています。このような子どもは高学年になるにつれて、学力もやる気もなくなっていくます。適当にごまかしたり、その場だけをしのごうというような態度になります。こんな例を見ると、家庭での乳幼児期からのしつけがどんなに大切かがわかります。毎日こつこつとやり続けていくことを嫌がらない、粘り強い子どもを育てるということです。人間にとって、仕事や勉強は必ずしも苦痛ばかりを伴うものではありません。やれば充実感を感じ、生きる喜びを感じることができるものです。めんどくだつたりつらかつたりしても、やがて満足感を感じることができるということを教えることが、「しつける」ことだ、とも言えます。「しつける」には、「励まし」が必要なのです。

①はきものはきちんとそろえよう！

②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう！

③もちものには なまえ をかきましょう！

④でんわをかりたら かならず でんわ代10えんいれてください！